

リーマン証券の破綻が決済システムに与えた影響の評価・今後の課題

1. 決済システム全体への影響

- ・ 資金決済 ⇒ 市場参加者間での不履行（デフォルト）の連鎖は発生せず。不足資金はリーマン証券の取引相手（清算機関、一部の市場参加者）が迅速にカバー。
- ・ 証券決済 ⇒ リーマン証券による証券引渡の不履行を起点に、市場全体でフェイルが連鎖的に発生。しかし、同社の取引相手（清算機関、一部の市場参加者）が比較的短期間でフェイルを解消した結果、市場全体で発生したフェイルも自然に解消。
 - … DVP 決済の定着により、リーマン証券の取引相手が決済面で被った損害は「価格変動部分」に限定（取りはぐれリスクが広範に顕現する事態には至らず）。

2. 確認された課題（潜在的な課題を含む）

- ・ 清算機関における CCP（Central Counterparty）機能の向上
 - 破綻時におけるフェイル解消対応の一層の迅速化に向けた体制整備
 - 破綻対応の実態に即した流動性供給スキーム枠の設定
 - 「通常の市場環境下で破綻により発生し得る損失」を適切にカバーし得る担保計算モデルの精緻化（例：価格変動リスクの計測にあたって用いる過去データの参照期間、価格変動の想定期間、信頼区間）
- ・ 清算機関のカバレッジ拡充
 - 清算参加者・対象取引の拡大
- ・ 国債決済サイクルの短縮化（T+1化）

以上